謝辞

柔らかな光が地上にあふれ、春の息吹が聞こえてきました。まもなく、日本中のいたるところで、桜の花が美しく彩る日がやってきます。本日は、私たち卒業生のために、リモートでの学位記授与式を挙行してくださり、誠にありがとうございます。

また、学長先生をはじめ諸先生方、そして事務局の皆様におかれましては、ご多用の中ご臨席くださり、心から感謝申し上げます。旅立ちの節目となるこの場をお借りして、卒業生を代表してお礼を述べさせていただきます。

私が星槎大学共生科学部に入学したのは、4 年前の春でした。幼少期からのスポーツ好きが実を結び、7 人制ラグビーの日本代表として、国際大会や海外遠征などを経験させて頂くことで、多様な文化や価値観に触れ、自分自身の人生やミッションについて深く考えるようになりました。そして、いつしか保健体育教諭として働くことを夢見ていました。

しかし、競技引退を機に、結婚、出産、そしてブラジルへ移住という新しい世界へと動き出していたため、現実的には難しいと半ば諦めていました。そんな中、運命に導かれるように、日本で唯一の通信制で保健体育の教員免許状が取得できる星槎大学に出会いました。

入学したのはいいものの、卒業までの道のりがあまりにも壮大で、最初は何から手を付けていいのかわからず、困惑したことを鮮明に覚えています。そんな気持ちを素直に打ち明けると、星槎大学の職員の方々は、親身になってお話を聞いて下さり、常にベストな選択を一緒に考えて下さいました。

学修が始まり、星槎学を受講するために、星槎グループ創設者であり名誉会長の宮澤保夫先生の本を熟読しました。そこで、星槎の 3 つの約束「人を認める」「人を排除しない」「仲間を作る」に触れ、気づいたことがあります。それは、この 3 つの約束が、星槎大学のすべての基本となっており、私自身の価値意識と似ていることから、星槎大学にかかわる人たちに魅力を感じているということです。

入学してからは、幼い娘を抱えながらオンデマンドや ZOOM によるスクーリングや大量のレポートなど、12 時間の時差の中で、必死に勉強をしました。入学から 1 年が過ぎ、学修方法にも慣れ、仕事も順調だった頃、新型コロナウイルスが世界中で拡がり、感染予防のため、授業形態はすべてＺＯＯＭへと変わりました。柔軟に授業形態を変化させ、学生のニーズに応えられる教育機関は少なかったと思いますが、星槎大学がいち早く対応していく姿を見て、とても感銘を受けました。

新型コロナウィルスはよくも悪くも私たちの「当たり前」や「常識」を変えていきました。そして、それをチャンスにするのかピンチのまま過ごすのかは私たち次第でした。私がこの機会をチャンスに変えるべくして、死に物狂いに勉強ができたのも、夫のサポートがあったからだと思います。コーヒーを片手に、寝不足と戦い、寝ているはずの娘が受講中に起きて

きたり、大雨による停電が発生するなど、多くのハプニングを乗り越え、今こうして卒業を迎えられたことに、感謝以外の言葉が見つかりません。

　これから私たちが生きていく社会はめまぐるしく変化していくと言われています。新型コロナウィルスもそれを教えてくれた１つの出来事に過ぎません。そして、この不透明な時代を生きていくためには、星槎グループを創設した宮澤保夫先生のように、今までの「常識」や「当たり前」に疑問を持ち、立ち向かわなければなりません。ＩｏＴやＡＩ化が進み、私たち人間が、より快適に暮らすことのできる社会 Society5.0 が目の前に来ていると言われる今日です。しかし、どんなに科学技術が発達しても人にしかできないことがあると思います。これから進む人生の中で、星槎の３つの約束を大切にしながら、人を愛し、人に愛される生き方をしていきたいと思います。

　結びにあたり、本日ご臨席を賜りました皆様方のご多幸と、星槎大学の益々のご発展をお祈り申し上げ、謝辞とさせていただきます。本当にありがとうございます。

令和五年 三月十八日
卒業生代表
共生科学部 共生科学科　　井上 真理恵